環境対応 10/100/1000BASE-T/X メディアコンバータ　　2015.4.1(12 版)

DN5810Eシリーズ（Rev. F以降）

取扱説明書

ご使用の前に必ずお読み下さい。

製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。
URL http://www.dyden.jp/network/

安全にご使用いただくために（使用上の一般的注意事項）

指定用途以外には使わないで下さい！
10／100／1000BASE－Tの光変換以外の用途にはお使いにならないで下さい。
また仕様の項目を超えない範囲でお使い下さい。

分解しないで下さい！
取付けてあるカバー類は取り外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

製品は大事に扱って下さい！
誤って落としたり、ぶつけたりしますと製品の性能を低下させますので十分にご注意下さい。

異常が起きたら直ちに使用中止！
使用上、煙・臭い・発火などの異常に気がついた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

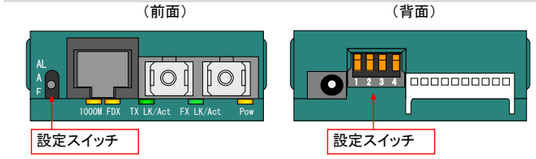
条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい！
本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

電波障害自主規制について！
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本製品のご使用にあたって！
本製品は、人命に関わる場合（医療、航空、原子力、軍事等）や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへの使用または機器組込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。
従いまして、これらのシステムへの使用や機器に組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的、間接的または付随的なものであるかどうかにかかわりなく、弊社は一切の責任を負いません。
お客様の責任におきまして、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご注意願います。

大電株式会社　　弊社が製品に貼付する取扱説明書は環境に配慮したインクを使用しております。

設　定　Ｓ　Ｗ



スイッチの設定と動作モード（前面スイッチ）
AL：光ポート Autonegotiation&LPT(Link Pass Through)有り設定
　光ポートが Autonegotiation モードかつ MC は LPT 動作有効になります。
A　：光ポート Autonegotiation&LPT 無し設定
　光ポートが Autonegotiation モードかつ MC は LPT 動作無効になります。
F　：光ポート 1000M 固定&LPT 無し設定
　光ポートが 1000M 固定モードかつ MC は LPT 動作無効になります。

LPT 動作の詳細については 7 頁参照

スイッチの設定と動作モード（背面スイッチ）
1：Autonegotiation モード
　UTP 側の通信速度及びモードを接続先の機器に合わせて自動設定します。
　スイッチ押上時が「ON」、押下時が「OFF」となります。
　対向器がアイドル信号を受信しない限りは、信号の送信をしないような機器（DN-2600 ｼﾘｰｽﾞをリンク連動設定で使用する場合など）とはリンクアップできませんのでご注意下さい。
2：1000M モード
　UTP 側の通信速度を 1000Mbps（1000BASE-T）に固定します。
　「Autonegotiation」を OFF にしないと有効になりません。
　スイッチ押上時が「ON」、押下時が「OFF」となります。
3：10M/100M モード
　UTP 側の通信速度を 100Mbps（100BASE-TX）もしくは 10Mbps（10BASE-T）に固定します。「Autonegotiation」および「1000M」ともに OFF にしないと有効になりません。
　スイッチ押上時が「100M」、押下時が「10M」となります。
4：Duplex モード
　UTP 側の通信モードを全二重（Full Duplex）もしくは半二重（Half Duplex）に固定します。「Autonegotiation」および「1000M」ともに OFF にしないと有効になりません。
　スイッチ押上時が「Full Duplex」、押下時が「Half Duplex」となります。

磁石ケース＆取付ネジ（M2.5×L3mm,2 本）

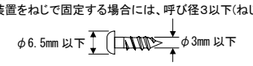
※出荷時に固定用ホルダに組込まれています。

別　　売　　品

下記部材については、添付していませんので別にご準備下さい。
・ツイストペアケーブル：
　10／100M動作時）
　TIA/EIA-568-A に適合するカテゴリー5以上のUTPケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを結線したものをご使用下さい。
　※モジュラーコネクタはストレート結線、クロス結線のどちらでも使用できます。
　※UTPケーブルは100m以下の長さでご使用下さい。
　1000M動作時）
　TIA/EIA-568-B に適合するエンハンスドカテゴリー5以上のUTPケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを結線したものをご使用下さい。
　※モジュラーコネクタはストレート結線、クロス結線のどちらでも使用できます。
　※UTPケーブルは100m以下の長さでご使用下さい。
　※モジュラーコネクタの結線はフル結線（8ピン全て結線）品を使用して下さい。

・コネクタ付光コード：
　【MMファイバ用（G）の場合】
　　石英系マルチモード光ファイバ（0.85μm 波長帯における伝送帯域が、500MHz･km 以上のもの）にSCコネクタ（JIS C 5973 F04 形）を取付けたものをご使用下さい。
　【MMファイバ用（WG, SG2）の場合】
　　石英系マルチモード光ファイバ（1.3μm 波長帯における伝送帯域が、500MHz･km 以上のもの）にSCコネクタ（JIS C 5973 F04 形）を取付けたものをご使用下さい。
　　※光コネクタは反射減衰量 22dB 以上のPC研磨をご使用下さい。
　　（平面研磨や斜め研磨のコネクタを使用した場合、通信障害を発生する可能性があります）
　【SMファイバ用（SG2, L, WS, WL）の場合】
　　石英系シングルモード 1.31μm 帯ゼロ分散形光ファイバにSCコネクタ（JIS C 5973 F04 形）を取付けたものをご使用下さい。
　　※光コネクタは反射減衰量 22dB 以上のPC研磨をご使用下さい。
　　（平面研磨や斜め研磨のコネクタを使用した場合、通信障害を発生する可能性があります）

・固定用ねじ：
　本装置をねじで固定する場合には、呼び径3以下(ねじ頭 6.5mmφ以下)のねじを使用して下さい。



警告

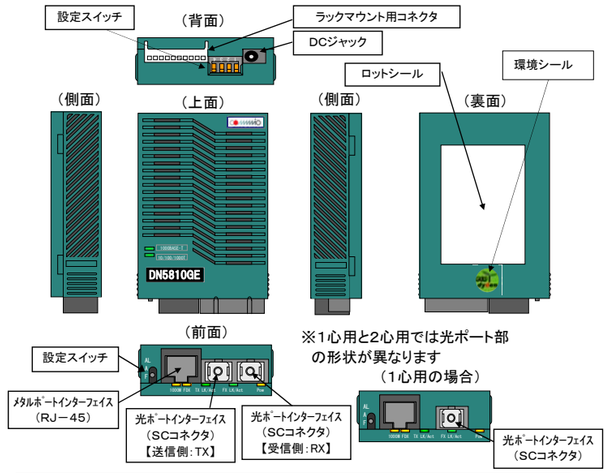
・交流100～240V以外で使用しないで下さい。
　指定電圧以外で使用すると火災や感電、故障の原因となります。
・ACアダプタは専用のものを使用して下さい。
　火災や感電、故障の原因となります。
・ACアダプタはACコンセントに確実に差込んで下さい。
　ACアダプタの刃に金属などが触れると火災や感電、故障の原因となります。
・水につけたり、水をかけたりしないで下さい。
　漏電による火災や感電、故障の原因となります。
・浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。
　漏電による火災や感電、故障の原因となります。
・専用ACアダプタと他社の機器とを接続しないで下さい。
　機器の故障及び火災や感電、故障の原因となります。
・静電気注意！
　本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分・UTP ポート・部品などに素手で触れないで下さい。

注意

・ ACアダプタを抜くときは、アダプタ本体部を持って抜いて下さい。
　電源コードを引っ張るとコードの損傷が発生し火災や感電の原因となることがあります。
・ 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないで下さい。
　故障や感電の原因となることがあります。
・ 本機をストーブなどの熱器具のそばに置かないで下さい。
　ケーブルの被覆が溶けて火災や感電の原因となることがあります。
・ 本機を直射日光の当たる所や温度の高い所で使用しないで下さい。
　内部の温度が上がり火災や故障の原因となることがあります。
・ 放熱スリットや隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。
　内部に触れ感電やけが、故障の原因となることがあります。
・ 本装置をほこりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。
　火災や故障の原因となることがあります。
・ 本装置を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。
　落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。
・ 本装置はクラス1レーザ製品です。
　クラス1レーザは合理的に予知可能な運転条件で安全であるレーザです。
・ 光コネクタ清掃のお願い。
　本装置は光ファイバとの接続に光コネクタを経由して光信号を伝送しています。光コネクタが埃等で汚れていた場合、正常に光信号を伝送できないだけでなく、光トランシーバ内に汚れが付着し、簡単に清掃ができなくなりますので必ず光コネクタ清掃後に接続頂くようお願いします。

1. 装置各部の説明／付属品

本　　体



Ａ　Ｃ　ア　ダ　プ　タ

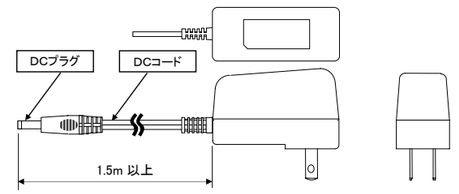
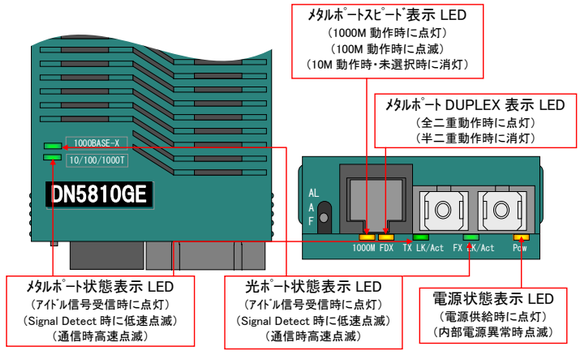
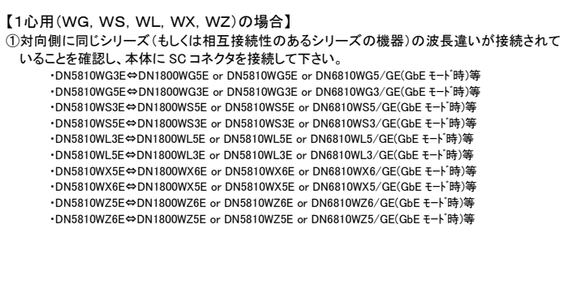


表　　示　　Ｌ　　Ｅ　　Ｄ



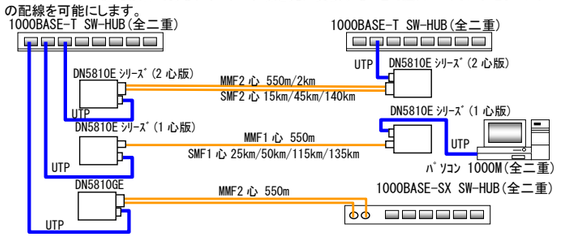
※Signal Detect:対向機器から信号を受信している状態です。Link Up 状態とは異なります。

固　定　用　ホ　ル　ダ

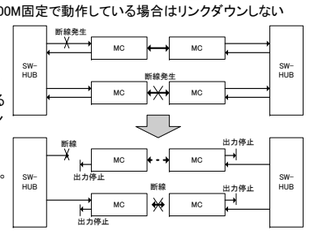


2. 概要

　本製品はUTPによる10/100/1000BASE-TXの信号を光信号（1000BASE-X）に変換するメディアコンバータです。
　ネットワークの通信媒体であるツイストペア線を光に変換することで屋外へのリンクセグメントの配線を可能にします。



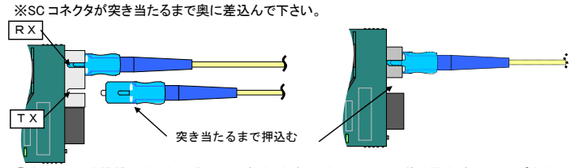
【リンク連動機能について】
　本製品にはリンク連動機能（LPT機能）があります。リンク連動とは、メディアコンバータ（MC）で受信のリンク断を検出した場合にMCの送信をOFFにする機能です。この機能により、MCを挟んで対向するSW-HUB間等の伝送路が切断されたときなど、両方のSW-HUBが伝送路の切断を認識できます。
　例えばSW-HUBのマルチポートトランキング機能を伝送路のバックアップとして使う場合、この機能がないと断線時などに正常な伝送ができない場合があります。
　この機能は光部Autonegotiation信号を用いて実現しているため、光部Auto設定時にしか有効になりません。なお、光対向側が1000M固定にも対応しますが、光1心断の検出できません。UTP断を検出して対向の光側をリンクダウンさせるのみとなります。また、DN1800Eシリーズとの相互接続も可能です。ただし、DN1800E(Rev:A～C)、DN5810E(Rev:A～B)と対向接続した場合は、DN1800E, DN5810E側が1000M固定時ではLPTは正常に動作しませんので、LPTを動作させる場合は光Auto+LPT設定で使用して下さい。
※対向機器が1000BASE-T Half Duplex設定（1000BASE-T側機器で1000BASE-T Half Duplex Advertise Modeになっている）場合はリンクアップしない場合がありますので正常に動作する設定でお使い下さい。また、光対向側が1000M固定で動作している場合はリンクダウンしない場合があります。あらかじめ相互接続試験を行うことをお勧めします。
※DN5810Eシリーズはブリッジタイプのためカスケード接続による多段接続が可能ですが、リンク連動機能は2台を超えて接続する場合は機能しませんので多段接続時はリンク連動をOFFにして使用下さい。
※リンク連動設定でBack to Back接続しますとリンクアップしませんので使用できません。また、光⇔UTP⇔光接続でもリンク連動は動作しませんので使用できません。



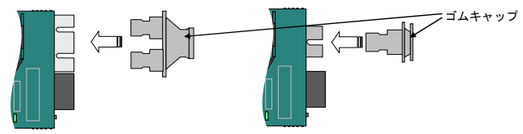
3. 種々の接続・取付け

光　コ　ネ　ク　タ　の　接　続

【各シリーズ共通注意事項】
①光ファイバにねじれや無理な張力が加わらないように注意し、ファイバの曲げ半径を30mm以上確保して下さい。
②SC コネクタがロックされていることを確認して下さい。
※SC コネクタが突き当たるまで奥に差込んで下さい。



③光コネクタを接続していない時には、ゴミなどが入らないように必ず付属のゴムキャップを取付けて下さい。

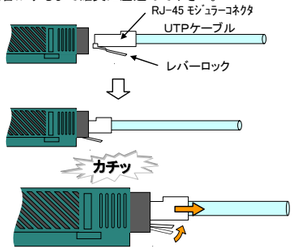


【1心用（WG, WS, WL, WX, WZ）の場合】
①対向側に同じシリーズ（もしくは相互接続性のあるシリーズの機器）の波長違いが接続されていることを確認し、本体に SC コネクタを接続して下さい。
・DN5810WG3E⇔DN1800WG5E or DN5810WG5E or DN6810WG5/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN5810WG5E⇔DN1800WG3E or DN5810WG3E or DN6810WG3/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN5810WS3E⇔DN1800WS5E or DN5810WS5E or DN6810WS5/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN5810WS5E⇔DN1800WS3E or DN5810WS3E or DN6810WS3/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN5810WL3E⇔DN1800WL5E or DN5810WL5E or DN6810WL5/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN5810WL5E⇔DN1800WL3E or DN5810WL3E or DN6810WL3/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN5810WX5E⇔DN1800WX6E or DN5810WX6E or DN6810WX6/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN5810WX6E⇔DN1800WX5E or DN5810WX5E or DN6810WX5/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN5810WZ5E⇔DN1800WZ6E or DN5810WZ6E or DN6810WZ6/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN5810WZ6E⇔DN1800WZ5E or DN5810WZ5E or DN6810WZ5/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等

【2心用(G, SG2, L, Z)の場合】
①対向側の TX 部と本体側の RX(本体右側)部、対向側の RX 部と本体側の TX(本体左側)部と接続して下さい。
②対向側に同じ型番の製品(もしくは相互接続性のあるシリーズの機器)が接続されていることを確認し、本体に SC コネクタを接続して下さい。
・DN5810GE⇔DN1800GE or DN5810GE or DN6810*/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)
or 1000BASE-SX 機器等
・DN5810SG2E⇔DN1800SG2E or DN5810SG2E or DN6810SG2/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)
or DN1800SE or DN5810SE or DN6810S/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)
or DN1800GⅡE or DN5810GⅡE 等 or 1000BASE-LX 機器等
※対向機器の仕様に合わせてご使用下さい。
・DN5810LE⇔DN1800LE or DN5810LE or DN6810L/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
・DN5810ZE⇔DN1800ZE or DN5810ZE or DN6810Z/GE(GbE ﾓｰﾄﾞ時)等
※SG2E を 1.5km 以上の MMF(50μm)と組み合わせて使用の場合でエラーが発生する時は 1m 程度の SM ﾌｧｲﾊﾞを両方の送信側に接続するとエラー低減に効果があります。(但し、光ロスが許容損失値以下であること)同様に SG2Eを使用し、帯域が足りないﾌｧｲﾊﾞで長距離伝送したい場合も 1m 程度の SM ﾌｧｲﾊﾞを使用することは有効です。

ＵＴＰケーブルの接続

①RJ-45 モジュラーコネクタを取付けた UTP ケーブルを、本体のモジュラージャックに接続して下さい。
※モジュラープラグのレバーロックが「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。



※モジュラーコネクタを取外す際には、レバーロック部をモジュラーコネクタに押当てた状態のままコネクタを引抜いて下さい。ロックされた状態で無理に引抜くと、ﾓｼﾞｭﾗｰコネクタやメディアコンバータ本体ｶﾞ破損する恐れがあります。

ＡＣアダプタの接続

【旧 AC アダプタ(**白地に黒文字シール/太径 DC コード品**)の場合】
①抜け防止を行う場合、固定用ホルダの背面部(旧 AC アダプタ DC コード固定部)に DC コードを引っ掛けて下さい。
※ケーブルを縦(細い)方向にした状態で固定部に挿入し、ケーブルを 90 度回転させると抜けなくなります。
②DC プラグを本体背面の DC ジャック部に接続します。
※DC プラグが入らなくなるまで押込んで下さい。

【新 AC アダプタ(**黒地に白文字シール/細径 DC コード品**)の場合】
①抜け防止を行う場合、固定用ホルダの背面内部(新 AC アダプタ DC コード固定部)に DC コードを引っ掛けて下さい。

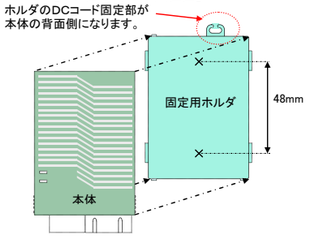
②DC プラグを本体背面の DC ジャック部に接続します。
※DC プラグが入らなくなるまで押込んで下さい。

最後に電源プラグ(AC アダプタの本体部)を AC コンセントに確実に差込んで下さい。
※AC アダプタは専用のものをお使い下さい。
細径 DC コードを太径 DC コード固定部に取付けると抜ける場合がありますので注意下さい。

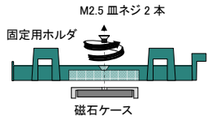
装　置　の　取　付　け

本装置は、ほこりや湿気が少なく直射日光の当たらない場所に設置して下さい。
横置きで使用する場合には、落下の危険がない平らな場所に設置して下さい。
金属部に磁石で固定する場合には、付属の固定用ホルダに磁石ケース取付けて下さい。(出荷時に取付け済み)
壁掛けで使用する場合には、磁石ケースを取外して堅牢な壁面等に木ネジ等で取付けて下さい。磁石ケースを取付けたままネジ締めを行うと、固定用ホルダが変形することがあります。

【ネジ固定時の下穴位置】
ホルダのDCコード固定部が本体の背面側になります。

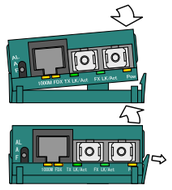


【ネジ固定時の磁石ケース取外し】



※固定用ホルダに本体を取付ける場合は、固定ホルダの片側面の爪に引掛けてから反対側を押込んで下さい。

※固定用ホルダから本体を取外す場合は、片側の爪(前後 2 箇所)を軽く開きながら本体を引抜いて下さい。



ＬＰＴ設定時の注意

本装置は UTP の速度設定に関わらず LPT 機能が動作します。また、DN1800E シリーズ(DN-1800 シリーズ含む)との互換性もあります。ただし、以下のような制限があります。以下の制限を守らないと正常に動作しません。
・UTP 側の速度設定が「Autonegotiation」の場合は必ず対向機器側も「Autonegotiation」に設定して下さい。

・UTP 側の速度設定が「速度固定」の場合は必ず対向機器側も「同速度で固定」に設定して下さい。

・LPT 設定時は、UTP対向側の機器が 1000M&半二重サポート状態だとリンクアップしない場合がありますのでその時は対向側の機器設定を 1000M&全二重の設定でご使用下さい。

・光側の対向機器が光 1000M 固定設定/ Autonegotiation 設定が選択できる場合は、光側の対向機器を「Autonegotiation」に設定して下さい。光側の対向機器を「1000M 固定設定」にした場合は UTP 断検出のみとなり、光 1 心断は検出できません。

ラックオプション(DN-HD12)搭載時の注意

本装置は専用サブラック(DN-HD12)に搭載するときは以下のような制限があります。以下の制限を守らないと故障の原因となります。
・最大搭載数量は 6 台です。

・DN-HD12 の搭載箇所は上段のみです。

・上段に本装置が搭載されている場合は下段には当社の他製品は搭載できません。

※DN-HD12 および SNMP ユニットの取扱説明書もご確認下さい。
※環境対応サブラックオプション DNHD12E に収納する場合は上記の様な制限はありません。

6. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確かめて下さい。

Pow LED が点灯しない

確認①:AC アダプタは専用のものを使用していますか？
確認②:AC アダプタの本体部はコンセントにきちんと根元まで接続されていますか？
確認③:AC アダプタの DC プラグ部はメディアコンバータ本体の DC ジャック部にきちんと根元まで接続されていますか？
確認④:低速点滅していませんか？
MC の内部電源が故障している可能性があります。(一旦返却下さい)

TX LK/Act LED が点灯しない

確認①:モジュラーコネクタは確実にロックされていますか？
確認②:接続相手機器の電源は入っていますか？
確認③:接続相手の機器の設定と本装置の設定は合っていますか？
確認④:1000M動作時は接続相手の機器設定は「Autonegotiation」もしくは「1000M・全二重」になっていますか？
本装置は 1000M 時は全二重でしか動作しません。Autonegotiation に対応していますが、ごくまれに 1000M/Half Duplex Mode 設定になる機器があります。その時は 1000M・全二重設定に変更して、再度モジュラーコネクタを抜差しして下さい。
確認⑤:LPT 設定になっていませんか？
UTP 側と光側が両方ともリンク確立する状態にならないとリンクアップしません。
確認⑥:UTP ケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか？
代わりの UTP ケーブルで接続してみて下さい。
モジュラーコネクタはフル結線である事を確認して下さい。
確認⑦:低速点滅していませんか？
対向機器から信号を受信している Signal Detect 状態になっています。
UTP ポートがリンクアップ出来る状態にならないと発生します。
LPT 有効時は UTP/光ポートが共にリンクアップできる状態にならないと発生します。各ポートの状態を確認して下さい。
また、UTPを抜いても点滅数秒間続く場合がありますが、検出機能による現象です。

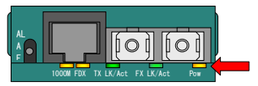
FX LK/Act LED が点灯しない

確認①:光コネクタの端面は汚損がなく確実にロックされていますか？
コネクタの端面を清掃し、再度抜差しして下さい。
汚損した光コネクタを接続し、清掃を行っても改善されなかった場合には汚れが光トランシーバ内に付着している可能性がありますので光トランシーバ内の清掃を行って下さい。(清掃が不可能な場合は一旦返却下さい)
確認②:接続相手の機器は 1000BASE-SX 対応機器【G タイプ】もしくは 1000BASE-LX 対応機器ですか？
確認③:LPT設定になっていませんか？
UTP 側と光側が両方ともリンク確立する状態にならないとリンクアップしません。
確認④:光ケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか？
SG2/L/Z/WG/WS/WL/WX/WZ に関しては、伝送路にエアギャップ式の光減衰器(アッテネータ)を挿入しないで下さい。伝送路のコネクタ接続についてはPC 研磨以上の反射減衰特性を持つコネクタを PC 接続して下さい。光伝送路が光許容損失値内である事を確認して下さい。
※1000M 固定設定時の入力信号の確認は Auto 設定時と比較し、符号のチェックまで行いませんので、誤動作する可能性があります。厳密なチェックを行いたい場合には Auto 設定をお使い下さい。
確認⑤:低速点滅していませんか？
対向機器から信号を受信している Signal Detect 状態になっています。
光ポートがリンクアップ出来る状態にならないと発生します。
LPT 有効時は UTP/光ポートが共にリンクアップできる状態にならないと発生します。各ポートの状態を確認して下さい。

4. 接続状態の確認

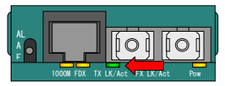
電源の確認

添付の AC アダプタを AC コンセントに差込み、DC プラグ本体に接続した状態で本体表示 LED の「Pow」が黄色に点灯していることを確認して下さい。



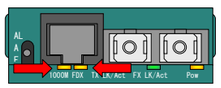
UTPケーブルの確認

UTP ケーブルを 10/100/1000BASE-T 対応の機器(パソコンやルーター,スイッチングハブ等)に接続し、本体表示 LED の「TX LK／Act」が緑色に点灯(もしくは点滅)することを確認して下さい。



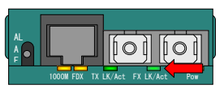
※UTP を介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。
※LPT 設定状態時には、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれ UTP で接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に配線していないと確認できません。
※リンクアップした状態で、本体表示 LED の「1000M」と「FDX」の点灯状態により、本装置の速度及びモードを確認して下さい。

「1000M」点灯,「FDX」点灯・・・・・1000M全二重
「1000M」点滅,「FDX」点灯・・・・・ 100M全二重
「1000M」点滅,「FDX」消灯・・・・・ 100M半二重
「1000M」消灯,「FDX」点灯・・・・・ 10M全二重
「1000M」消灯,「FDX」消灯・・・・・ 10M半二重



光ケーブルの確認

光側対向機器と光ファイバを接続した状態で本体表示 LED の「FX LK／Act」が緑色に点灯(もしくは点滅)することを確認して下さい。



※光ケーブルを介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。
※LPT 設定状態時には、対向側のメディアコンバータ及びそれぞれ UTP で接続した機器全ての電源が投入され、且つ正常に配線していないと確認できません。
※Auto 設定時は、光対向側も同様に Autonegotiation 設定になっていないとリンクアップしません。(UTP 側及び光2心共接続しておく必要があります)

1000M／FDX LED が点灯しない

確認①:UTP 側 Autonegotiation 設定時で UTP ポートはリンクアップしていますか？
リンクアップ時に速度とモードの状態を表示します。
確認②:速度及びモードの設定は合っていますか？
本装置を Autonegotiation 設定にしている場合、UTP で接続している機器が全二重固定設定だと本装置は半二重でリンクアップする場合があります。
UTP で接続している機器を Autonegotiation 設定にするか、本装置を対向機器と同じ速度及びモードに固定設定にして下さい。
また、本装置の速度及びモードを固定設定とした場合、UTP で接続している機器が本装置と異なる設定だと設定とは異なる状態でリンクアップする場合がありますので、固定設定をする場合には必ず同じになるように設定して下さい。

設定が変更できない

確認①:SNMP で設定をしていませんか？
ラックオプション(DN-HD12／HD12E 等)に実装してご使用されている場合、SNMP モジュールからの設定が有効になっていると、本装置の設定スイッチを切替えても設定は反映されません。SNMP モジュール側で設定を解除してみて下さい。
(詳しくは SNMP ユニットの取扱説明書をご確認下さい)

※LPT 設定時にリンクアップしない場合は、光側 1000M&LPT 無しの設定に切り替えてみて下さい。
それでもリンクアップしない場合は光側の伝送路及び対向側の機器設定が 1000M・全二重設定になっていないか UTP 側の伝送路及び対向側の機器設定が異なっている場合があります。
※リンク連動が不要な場合は、光側 1000M&LPT 無しか光側 Auto&LPT 無しの設定でお使い下さい。
リンクアップしない場合は、1000M&LPT 無し設定でリンクアップするか確認して下さい。
正常にリンクアップしたら対向側の光設定が 1000M 固定設定で動作しています。(光部対向装置の仕様により 1000M 固定設定でしかリンクアップしない場合があります)
※上記設定は、全て光側に接続する機器の仕様に合わせて全二重でリンクアップするようにお使い下さい。
※設定 SW はゆっくりと切替えて下さい。
設定 SW の切替をすばやくすると設定を正常に読込めない可能性があります。
一番上～下への切替時も確実に真ん中の位置に一旦入った事を確認後切替えて下さい。

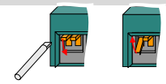
特定のパケットだけ通信できない

確認①:1633Byte 以上のパケットではないですか?
本製品はブリッジタイプのメディアコンバータですのでパケット長やエラーパケットのチェックを行っています。ショートパケット(63Byte 以下)やロングパケット(1633Byte 以上)およびエラーパケットは破棄します。御使用のパケット長の確認をお願いします。

5. SWの設定及び注意

ＳＷの設定

SW の設定は、精密ドライバー(マイナス)やシャープペン等先の細いものを用いて SW レバーを押下げ(または押上げ)て下さい。



※速度設定を変更した際は、本装置は瞬間的にリセット状態になります。
設定変更時以外は不用意に SW に触れないように注意して下さい。

※別売のサブラック(DNHD12E 等)にメディアコンバータを実装して、オプション品「SNMP ユニット」から設定を行っている場合には、手動による SW の設定が有効になりません。

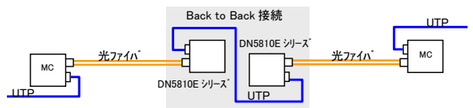
設定時の注意

①UTP対向側の機器が固定設定(速度・モード)の場合には、必ず本装置も対向機器の速度・モードと同じになるよう固定設定にして下さい。
※設定が異なる場合には、リンクアップしなかったり、設定とは異なる速度・モードでリンクアップする可能性があります。

②光部対向側の機器が Autonegotiation 設定(LPT 設定含む)時には必ず本装置の設定を Autonegotiation(LPT 設定含む)設定にして下さい。
※設定が異なる場合はリンクアップしなかったり、通信できない可能性があります。

③LPT 設定時は対向接続したメディアコンバータの設定も LPT 設定にして下さい。
※異なるとリンク異常状態を伝えることができなくなるため Link Aggregation 等のトランキング用途で正常に動作しない可能性があります。

④本装置は Back to Back 接続により伝送距離の延長化を図ることが可能です。
この場合、本装置と UTP で対向して接続する機器が LPT モードに設定されているとリンクアップおよびリンクダウンできない場合があります。Back to Back 接続を行う場合は、本装置及び対向機器の LPT モードを解除してご使用下さい。
LPT モードでご使用になる場合は DN5810E ｼﾘｰｽﾞ同士を組合せて 2 台以内でご使用下さい。UTP ポートの設定は Autonegotiation または 1000M 設定でご使用下さい。 LPT モード時や 10M/100M 設定時は Back to Back 接続はできません。



環境対応 10/100/1000BASE-T/X ﾒﾃﾞｨｱｺﾝﾊﾞｰﾀDN5810E ｼﾘｰｽﾞ保証書

ロットNo. S／N (ロットシールに記載)	

お客様(御社名)		
お名前(ご担当者名)		
お客様	ご住所	
お客様	TEL	
お客様	FAX	
ご購入日		年　月　日
保証期間		ご購入日より5年間(センドバック式)
販売店		
販売店	住所	
販売店	TEL	
備考		

＊保証外条件
保証期間内であっても、次の場合は保証外となりますのでご了承下さい。
1. 取扱説明書に記載の使用方法や注意事項反するお取り扱い及び不当な修理や改造によって生じた故障及び損傷
2. ご購入後の輸送、移動中の落下等、お取り扱いが不適当なために生じた故障及び損傷
3. 火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変及び指定外の使用電圧による故障及び損傷

『営業窓口』 大電株式会社　ネットワーク機器部　営業課
ｺｰﾙｾﾝﾀｰ(ﾃｸﾆｶﾙｻﾎﾟｰﾄ窓口) : 0120-588-545(携帯・PHS にも対応)
e-mail : commnio@dyden.co.jp
東　京 : 〒113-0033　東京都文京区本郷 2-3-9　ツインビュー御茶ノ水3階
TEL (03)5684－2100【代表】
名古屋 : 〒461-0005　愛知県名古屋市東区東桜 1-1-6　住友商事名古屋ビル5階
TEL (052)951－1414【代表】
大　阪 : 〒541-0041　大阪市中央区北浜 4-7-28　住友ビルディング2号館1階
TEL (06)6229－3535【代表】
九　州 : 〒849-0124　佐賀県三養基郡上峰町 2100-19
TEL (0952)52－8546【代表】